

いな 稲 やま 山 遺 跡

発 掘 調 査 概 報

平成11年度

青 森 市 教 育 委 員 会

## 序

青森市教育委員会では、平成10年度に引続き、今年度、東北縦貫自動車道八戸線建設工事に係わる稲山遺跡の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、縄文時代前期の竪穴住居跡や土坑、縄文時代後期の石棺墓など各種の遺構が検出されるとともに、土器や石器等多量の遺物が出土いたしました。

本書は、これら調査成果について、写真図版等を多用した発掘調査概報としてまとめたものであります。本書が文化財の保護・活用、歴史学習等、研究者はもとより市民の皆様にとりまして、いささかでも役立つことができれば幸いと存じます。

調査の終始にわたる、調査員、関係機関並びに各位のご指導、地元町会からのご理解、ご協力に対しまして、厚くお礼申しあげます。

平成12年3月

青森市教育委員会

教育長 池田 敬

## 例言

## 目次

1. 本書は、青森市教育委員会が平成11年度に実施した東北縦貫自動車道八戸線（青森～青森）建設工事に係わる稲山遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 稲山遺跡発掘調査は、日本道路公団の委託を受け実施した。
3. 稲山遺跡の遺跡番号は、01045である。
4. 本遺跡の発掘調査は、昨年度も実施しており、今年度は、第二次にあたる。昨年度の調査成果については、「稲山遺跡発掘調査概報」（青森市教育委員会1999）として、刊行しており、本書は、2冊目にあたる。
5. 発掘調査報告書は、発掘調査が、調査対象区域全体を完了するまで引き続き実施する予定であることから、調査完了後に調査全体について刊行する。
6. 本書の編集・執筆は、調査担当者である小野貴之がおこなった。
7. 発掘調査の実施にあたって次の機関からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。

序

例言

目次

はじめに..... 1

稲山遺跡の概要..... 1

今年度の調査から..... 2

縄文時代前期の様相..... 4

縄文時代後期の様相..... 8

まとめ.....12

## はじめに

東北縦貫自動車道は、東北全域における高速交通網の中核であり、また、わが国の産業・経済・文化の発展に大きく寄与してきました。しかし、本県においては、県内の主要都市のうち青森市と八戸市を結ぶ路線は、未整備となっていました。

そこで、日本道路公団では、青森市と八戸市を結ぶ東北縦貫自動車道八戸線建設を計画し、青森市の東西端を結ぶ、青森～青森間16kmの路線に着手することとなりました。しかし、建設予定地内には、複数の遺跡が所在していることから、これらの遺跡の対応について、日本道路公団と青森県文化課で協議をしました。その結果、路線の変更が困難であり、記録保存を前提とした発掘調査を実施することとなりました。

そして、建設予定地内に所在する稲山遺跡については、青森市教育委員会に調査が依頼されました。

当委員会では、埋蔵文化財保護と開発事業との円滑な調整を図るため、検討、協議を重ね、その結果、調査を受託することとし、平成10年度には、日本道路公団と地方協力を行う青森市都市政策部との委託を受け、青森市諏訪沢に所在する稲山遺跡の発掘調査を5月11日から11月20日まで実施しました。

引き続いて今年度、当委員会は、遺跡の中央部から東側を主体に、5月11日から11月19日まで、発掘調査を実施しました。

## 稲山遺跡の概要

本遺跡は、青森市の東部、青森市大字諏訪沢字山辺に所在しています。本遺跡は、青森市東～南部に広がる火山性台地に立地しており、その末端部に相当する稲山の標高10～35mの南丘陵に位置しています。遺跡中央部は、南丘陵が一部突出した台地状の地形となっています。本遺跡から陸奥湾へは、直線距離で3km、東を流れる野内川へは、直線距離で2kmの距離となっています。

青森市には多くの遺跡があり、その数は、平成12年3月末で298個所にのぼります。本遺跡の付近にも様々な遺跡があります。付近の縄文時代の遺跡には、縄文時代後期の石棺墓が見ついている山野峠遺跡や縄文時代晩期の貝塚である大浦貝塚、同じく晩期の竪穴住居跡が見ついている長森遺跡などがあります。さらに南西部には縄文時代早期から晩期の蛸沢遺跡があります。

昨年度の調査は、調査区中央部から西側を主体に約7,500m<sup>2</sup>の調査を実施しました。調査の結果、96基の土坑が見ついています。また、段ボール箱で480箱の多量の遺物が見ついています。そのほか、本遺跡が縄文時代前期と後期を主体とする遺跡であること、調査区中央部の台地を中心に遺構・遺物が密集していること、遺構の種類には、遺物集中ブロック(捨て場)や竪穴住居跡、土坑など各種があることがわかりました。



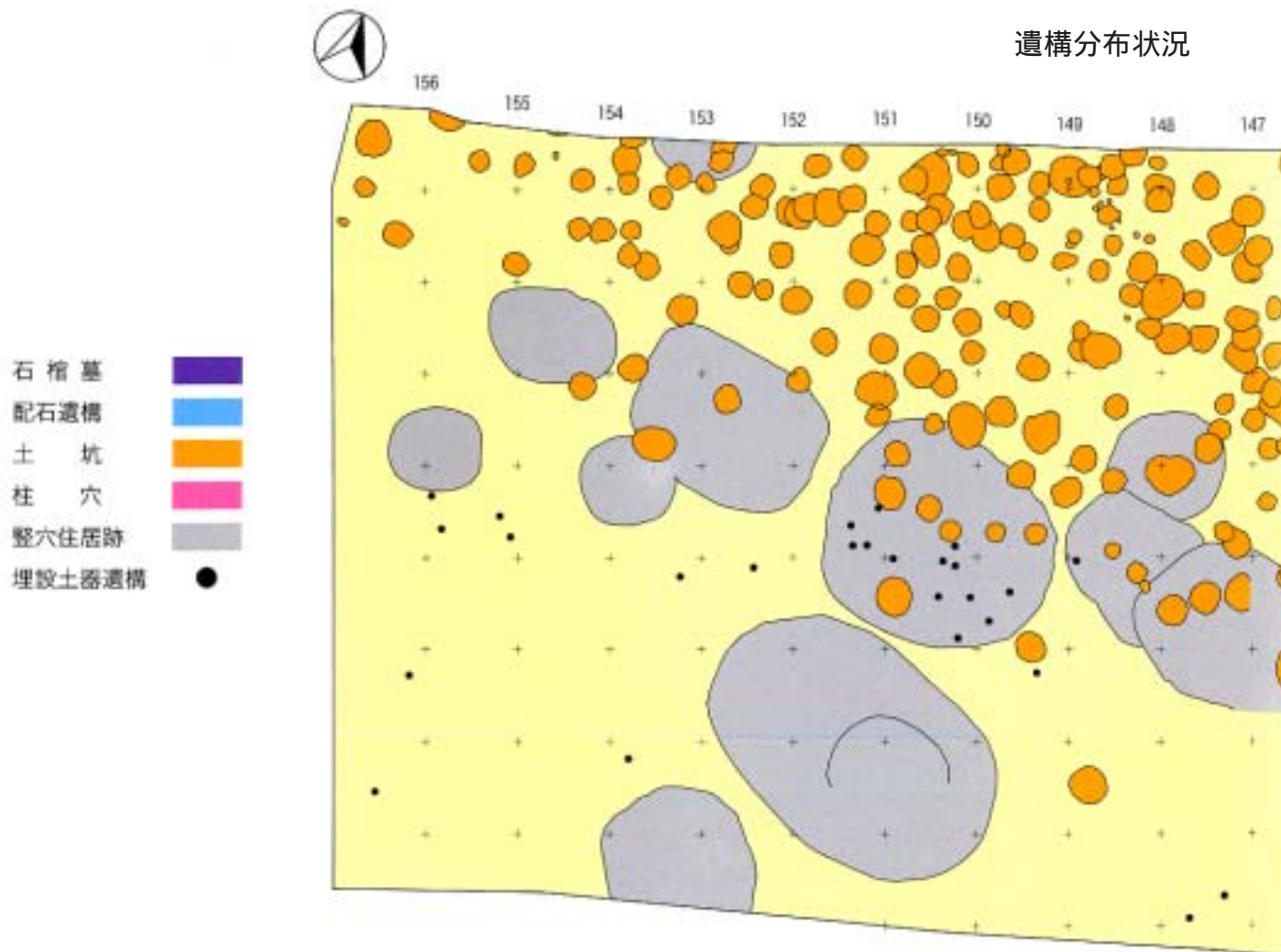
周辺の遺跡

## 今年度の調査から

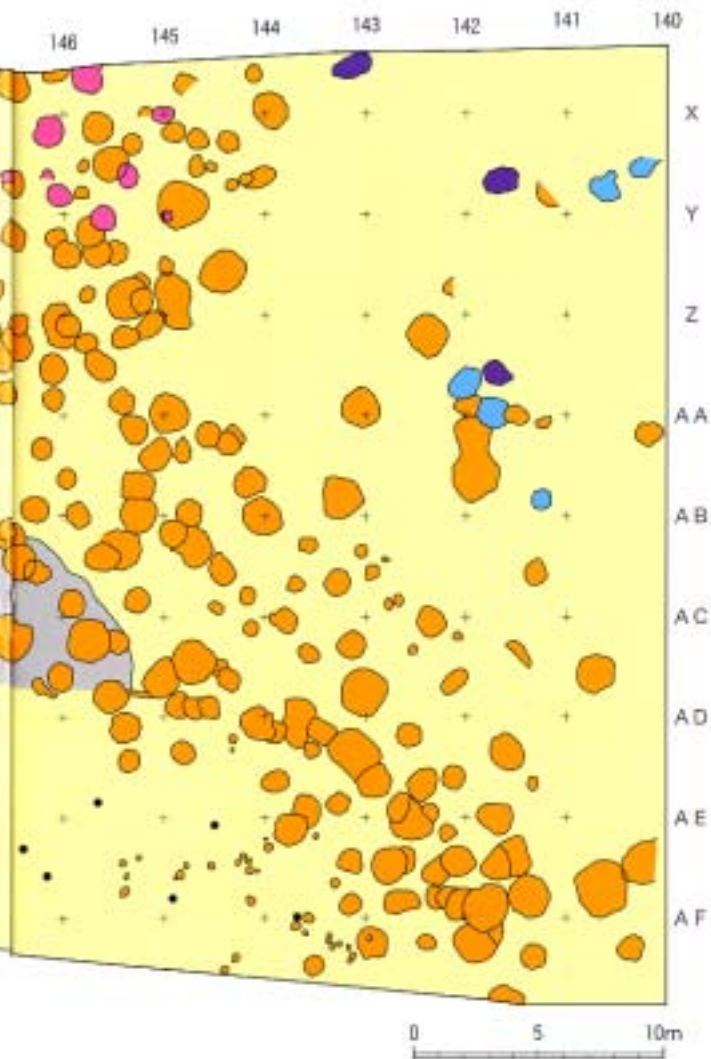
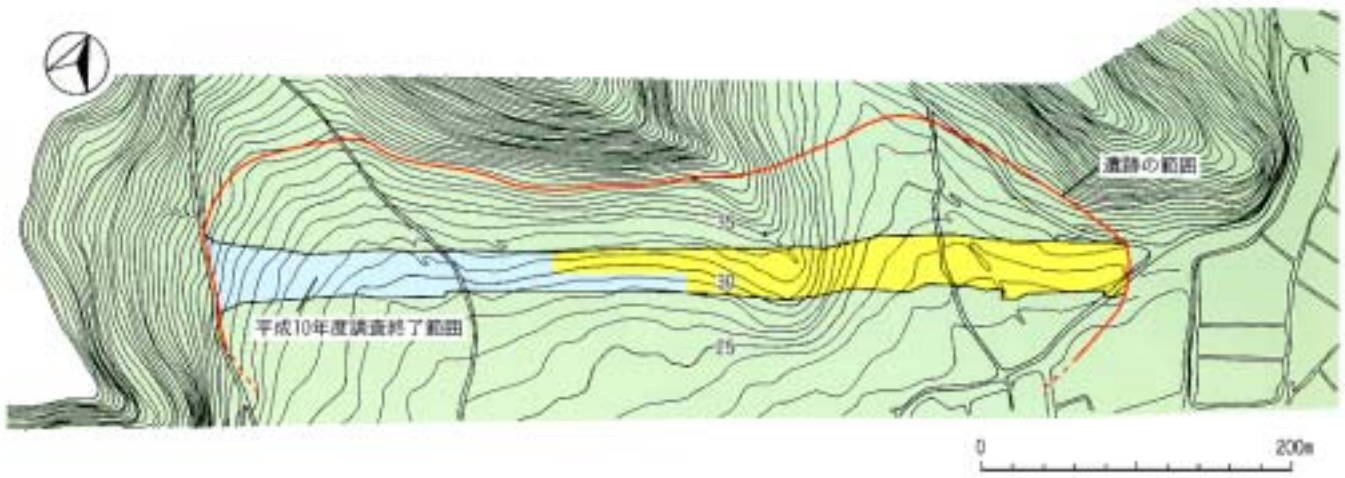
本遺跡の調査対象範囲は、道路建設に係わるもので、東西に約600mにわたる細長い形となっています。今年度は、そのうち中央部及び東側の一部、面積にして約5,000m<sup>2</sup>の調査を実施しています。

今年度の調査では、特に遺構・遺物が密集して分布している台地における遺構の調査を中心としています。現在まで見つかった遺構及び遺構数は、縄文時代前期の竪穴住居跡12軒、埋設土器遺構34基、焼土遺構1基、縄文時代後期の石棺墓3基、配石遺構5基、柱穴9基です。また、縄文時代前期と後期の土坑364基のほか、遺物集中ブロック(捨て場)を昨年度に引き続き調査しています。今年度見つかった遺物の量は、段ボール箱で550箱です。

台地における各種遺構の分布状況は、台地北側のなかで標高が最も高い地点に石棺墓や、配石を伴う土坑、柱穴が分布しています。また標高が少し低い地点では袋状、フラスコ状を呈する土坑を主体に多数の土坑が密集して分布しています。また標高の低い台地の南側では、縄文時代後期の遺物集中ブロック(捨て場)のほか、縄文時代前期の竪穴住居跡や埋設土器遺構が、直線状、あるいはやや弧状に分布しています。



# 調査対象範囲図



作業風景



遺物集中ブロック（縄文時代後期）

## 縄文時代前期の様相

### 竪穴住居跡

縄文時代の人々が暮らす家として、地面を掘り込んで構築する竪穴住居が、昨年度も含め 12 軒見つかっています。

住居跡は、台地の南側を主体に、標高の高い台地北側を取り囲むように分布しています。今後の調査においても住居跡は、台地の南側で 5 ～ 10 軒程見つかるものと思われる。

調査区の端に位置するため、正確な規模が不明なものもありますが、長軸が 4 ～ 6m 程の比較的小型の住居跡と、長軸が 8 ～ 14m 程の比較的大型の住居跡とがあります。

住居の平面形は、円形、楕円形を基本的な形としています。比較的小型の住居跡では平面形が円形を呈するものが主体のようです。比較的大型の住居跡では、楕円形が主体で、そのほか円形のもの、隅丸長方形のものが見つかっています。

住居床面には貼床の見られるものがあり、堅くしまっています。また同じく床面からは、柱を立てた柱穴が見つかっています。主柱穴の配置は、小型の住居跡では、二本一列、二本二列で、大型の住居跡では、二本二列、三本二列となっているようです。

そのほか、個々の住居跡では、土を堤状に盛り上げて作っている特殊施設が見ついている住居跡が 1 軒、テラスなど段構造を呈する住居跡が 3 軒見つかっています。ただし、現在まで見ついている住居跡のうち、明確な炉が見ついているものはありません。台地では火を焚いたと思われる焼土遺構が見つかっていますが、1 基のみにとどまっています。

これら、住居跡の時期については、床面から見ついている土器が少なく、明確ではありませんが、住居廃絶後の窪地から多量の縄文時代前期後半の土器が出土することや、調査全体で見ついている土器の時期が縄文時代前期後半と縄文時代後期前半であることからおおむね縄文時代前期後半の住居と考えられます。



小型の住居跡



大型の住居跡



段構造の住居跡



特殊施設

## 土 坑

本遺跡では昨年度から、364基の土坑が見つっています。これら土坑の時期は、縄文時代前期と後期とにわかれると思われます。後期と比べると、前期の土坑の数は少ないようです。

前期の土坑は、台地北側を主体に点在しています。

多くの土坑の形は、口が狭く、底の部分が広がる、袋状土坑、フラスコ状土坑と呼ばれるものです。

本遺跡の前期の土坑のなかからは土砂のほか土器の破片が散発的に見つっていることが多いようです。しかし、なかには完形に近い土器が一個体ないし複数個体見つっている土坑や、小さい石を敷き詰めた上に土器の破片が置かれたように見つっている土坑があります。本遺跡の前期の土坑からは、用途を明確に結論づける、食料や人骨などの遺物は、見つっていません。

これらの用途については一般に貯蔵穴、あるいはそれを転用した墓としての用途などが考えられるようです。



フラスコ状土坑



遺物出土状況

## 埋設土器遺構

埋設土器遺構は、地面に穴を掘り込み、意図的に土器を納めている遺構で、子供の墓と考えられるものです。

本遺跡では、現在まで34基が見つっています。うち32基が台地の南側で見つっています。同じ前期の竪穴住居跡と分布している地点が重なります。

納めている土器で時期のわかるものは、円筒下層式土器で、そのほかにも円筒下層式土器と思われます。また、納めている土器の内外面には炭化物が付着するものも多く、煮炊きなどに使われたものを棺に転用したものもあるのではないかと考えられます。

土器は、立てるようにほぼ正立の状態に納めているものが27基あるほか、斜めに納めているものが3基、逆さまに倒立の状態に納めているものが4基見つっています。

土器の上部などに石が置かれた状況で見つっているものが6基あります。この石は、墓標のようなものかもしれません。また、正立に納めている土器の口の部分に、それより少し小さい土器の上半部を逆さまに納めているものが2基見つっています。



埋設土器遺構



埋設土器遺構

## 土 器

前期の土器は、遺構の密集する台地を中心に、台地の下の平坦部まで広がって分布しています。

個体として識別できる土器の出土状況には、台地で、竪穴住居廃絶後の窪地から多量に見つかっているもの、土坑の中より一個体ないし数個体見つかっているもの、埋設土器として使用されているもの、遺構外より散発的に横転して潰れた状況で見つかっているものがあります。台地のすその部分では、二個所程で数個体がまとまり見つかっています。個体として識別できない土器片は、散発的に遺構内外で見つかっています。

前期の土器の形は、バケツを細長くしたような形をした、円筒深鉢形です。まれに、底部が台状になっているものがあります。大きさは、器高が20cm程の小型の土器、30cm程の中型の土器、40～50cm程の大型の土器の三種類程にわけることができます。大型の土器は、口径が20cm程の筒形の土器と、口径が25～30cm程で底部が小さなバケツ形の土器とにおおむね器形のタイプが分かれるようです。

胎土には、植物の繊維や砂粒を混入しています。煮炊きに使われたのか土器の外面や内面に炭化物が付着するものがあります。

大半の土器の口縁部と胴部では文様が異なります。口縁部には、縄や絡条体を押圧するものが多数で、横位に平行に施文するもの、横位、斜位を組み合わせて幾何学的な文様を施すものが目立ちます。

そのほか、縄文を回転施文するもの、絡条体を横位に回転施文するもの、羽状縄文を横位に回転施文するものがあります。羽状縄文は、胴部まで同じように施文するものがあります。少し変わった撚り方をするものがあります。胴部には、縦走、斜走する縄文を施すものが大半で、特に縦走のものが目立ちます。そのほか絡条体を縦位に回転施文するもの、羽状縄文を横位に回転施文するものがあります。

これらの土器は、縄文時代前期の円筒下層b式土器から円筒下層d<sub>1</sub>、d<sub>2</sub>式土器に相当すると思われます。これまでの調査では、円筒下層d<sub>1</sub>式土器が多いようです。



前期の土器



## 石 器

前期の石器では、石鏃、石匙、敲石、磨製石斧、半円状扁平打製石器、石棒などが見つかっています。

石鏃、石匙、磨製石斧は、刃物として、狩猟の矢、ナイフ、材木の伐採等に使用されたと思われます。

半円状扁平打製石器は、縄文時代前～中期の円筒土器に伴って多数見ついている石器です。決定的な用途は不明ですが、物を擦るなど様々な用途が考えられています。

石棒は、破損品が1点見つかっています。先端部が太く丸い形をしています。祭祀やおまじないなど当時の人々の精神生活に関連した道具と思われる。



前期の石器

## 土製品・石製品

土製品は、土器片利用土製品が見つかっています。土器の胴部片を円形に整形しています。

石製品では、岩偶が1点見つかっています。人の形を省略化して模したものと思われる。

これらの用途は、はっきりしませんが祭祀やおまじないなど当時の人々の精神生活に関連した道具と思われる。

また、けつ状耳飾や有孔石製品が見つかっており、これらは装飾品と思われる。

これら前期の土製品、石製品は、ほとんどが遺構外で見つかっていますが、有孔石製品には、土坑の中から見ついているものもあります。



前期の土製品・石製品

## コラム 住居から見つかる土器

時として、竪穴住居廃絶後の窪地からは、驚く程多量の土器が見つかることがあります。稲山遺跡では、1軒の竪穴住居跡から実に70個体以上もの土器が見つかっています。このような現象は、縄文人が窪地を単にゴミ捨て場として利用したことによるものなのでしょうか？あるいは、不要となった土器などを供養？の気持ちも込めて窪地に集めたのでしょうか？

なかなか明確な答えは出て来ませんが、ヒントとして、多量の土器は、全ての住居跡からではなく、限られた住居跡から見ついているという状況を考えると、もしかしたら後者のような発想で、土器を窪地に集めたのかもしれない。

もちろん、単に窪地をゴミ捨て場として利用したことも否定はできませんが、いずれにしても、調査を進めていると、このような少々頭を悩ます現象に出くわすこともあります。



窪地で見つかる土器

## 縄文時代後期の様相

### 土 坑

現在まで見つかった土坑のうち、大半は、縄文時代後期のものです。調査区中央部の台地に密集しており、多数が重複しています。

後期の土坑には、様々な種類のものが見つっています。

ひとつは、縄文時代前期の土坑と同じ、袋状土坑、フラスコ状土坑です。最も数が多く、台地北側に広がり分布しています。これらには、底面中央に小さな穴があるもの、底面の周囲に小さい穴の巡るもの、底面近くの壁を掘り込んだ横穴に、河原石を置いているものなどがあります。

次に、断面形がピーカー形の土坑も見つっています。土坑の分布する台地北側の中でもやや東側に多く分布しています。

袋状土坑、フラスコ状土坑、ピーカー形の土坑については、用途を明確に結論づける遺物は見つっていないです。

最後に、平面形が小判型、長楕円形で、掘り込みの浅い土坑もわずかに見つっています。調査区の最も標高の高い地点に分布しています。土坑の長軸は、北東～南西を向いています。上部に配石を伴っています。墓と思われるものです。



フラスコ状土坑



小判形の土坑



柱 穴

### 柱 穴

土坑のほか、柱穴が9基見つっています。

台地北側の標高の高い地点の一部にまとまって分布しています。うち6基は、建物跡のように並んで見つっています。

### 配石遺構・石棺墓

配石遺構が、現在5基見つっています。それらは、台地北側の調査区内において標高が最も高い地点で見つっています。

配石遺構には、様々な種類がありますが、本遺跡で見つっているものは、組石に相当すると思われます。配石下部に土坑を伴うものが多く、それらの土坑は、平面形が小判形、長楕円形のもの



配石遺構

が多いようです。1基のみ下部に円形の土坑を伴い、土坑上部のほか、土坑内でも組石が見つっています。

また、現在まで3基の石棺墓が見つっています。石棺墓の規模は、長軸が130～170cm、短軸が80～100cmです。第1、3号石棺墓の長軸は、北東～南西方向を向いています。第2号石棺墓の長軸は、およそ東～西方向を向いています。

第1号石棺墓は、土坑に4枚の板状節理の石を立てて棺の側壁としています。側壁に囲われたなかには、2枚の板状の石が敷かれたように横たわっていました。

第2号石棺墓（表紙写真ほか）は、端部に位置する石皿1点を含む9個の河原石を側壁として土坑内に巡らせており、その側壁に囲われた遺構上部には、河原石をドミノ倒しのように2列に並べています。棺のなかには、2枚の板状節理の石が敷かれたように横たわっていました。

第3号石棺墓は、4枚の板状節理の石を立てて棺の側壁としています。側壁に囲われたなかには、上部に大きな石が1個ありました。

石棺墓は、再葬土器棺墓という再葬を行う当時の風習に係わり、その一次埋葬に使用される施設と考えられています。

本遺跡の第2号石棺墓は、遺構上部に石が並べられており、墓としてつくられた状況を、おおむね現代に残していたものと思われます。また、第1、3号石棺墓は、側壁が一部しかないことなどを考えると、墓としてつくられた状況が何らかの理由で変化したものと考えられます。

これら石棺墓の時期については、遺構内から縄文時代後期と思われる土器片が見つっており、またほかの石棺墓が見つっている事例等から、おおむね縄文時代後期に属するものと考えられます。



第2号石棺墓



第1号石棺墓



第3号石棺墓

## 土 器

縄文時代後期の土器は、遺構の密集する台地に分布しています。

個体として識別できる土器の出土状況には、台地南側に広がる遺物集中ブロック(捨て場)で、礫や多量の土器片とともに完形や横転して潰れた状況で見つっているもの、主として袋状、フラスコ状を呈する土坑のなかから完形に近い形や、潰れた状況で見つっているものがあります。個体として識別できない土器片は、土坑のなかで、同一個体の破片が見つっているもの、遺構内で土器片が散発的にみつっているもの、遺物集中ブロックで土器片が多量に見つっているものがあります。

後期の土器の形は、浅鉢、深鉢、台付鉢、壺など様々で前期と比べると器種のバリエーションが豊富です。そのほか、土器を焼き上げる前に切断した切断土器や、粘土紐で弓矢や動物を表したと思われる狩猟文土器が見つっています。器面を赤く彩色している土器もあります。

土器の文様は、ヘラ状の工具による、沈線文を主体に施文するものが多く、渦巻文や入組文を施すものが多数あります。沈線文と隆帯を組み合わせた施文や、櫛歯状の沈線文を施すものも見られます。そのほか、器面の大部分に網目状撚糸文、縄文を施すものもあります。

また、粘土紐貼付を施文の主体とするもの、粘土紐貼付と沈線により大柄な方形文や渦巻文を施すもの、地文上に沈線で渦巻文や方形文を施すものなども見られます。

これらの土器は、縄文時代後期初頭の土器や十腰内 式土器に相当すると思われる。



切断土器



後期の土器(入組文)



後期の土器

## 石 器

後期の石器は、石鏃、石槍、石錐、石匙、石筥、磨製石斧、石錘、石皿などが見つっています。

石錐は、孔を穿つための道具です。

石錘は、漁に際し網のおもりとしての使用が考えられている道具です。石の両端を打ち欠いたものと、溝を巡らせたものがあります。

また、前期と比べ後期の石鏃や磨製石斧は、かなり小型のものも多く見つっています。



後期の石器

## 土製品・石製品

後期の土製品は、土偶、鐙形土製品、土器片利用土製品、耳飾りなどが見つっています。

土偶は、頭、腕、胴、脚など各部が破損した状況で見つっています。

土製品のなかでは、鐙形土製品と土器片利用土製品が点数が多く見つっています。特に土器片利用土製品は200点以上見つっています。

耳飾りは、赤く彩色されたものもみつっています。

石製品は、三角形岩版、円形岩版、球状石製品、装飾品と思われる有孔石製品などが見つっています。石製品のなかでは三角形岩版、円形岩版の点数が多くいずれも100点以上見つっています。



後期の土製品



後期の石製品

## コラム 狩猟文土器



狩猟文土器

縄文時代中期末葉から後期の時期の遺跡では、粘土紐で土器の器面に動物や、弓などの狩りの意匠を施した土器が時に見つすることがあります。本遺跡では、頭部及び四肢を広げた動物とおぼしきものと、それを射止めようと狙っているかのような弓矢が、粘土紐によって表現されていると思われる土器片が見つっています。このような意匠の施されている土器を「狩猟文土器」と呼んでいます。

本遺跡で見つかった狩猟文土器は、壺形土器と思われます。動物や弓矢が表現された部分は、器面を四面に分割したものの一面に相当すると思われます。

このような、狩猟文土器は、青森市内では小牧野遺跡で見つっているほか、昨秋、山野峠（山王峠）遺跡から見つかった狩猟文土器のニュースが、テレビや新聞紙上を賑わしました。県内では、八戸市の葦窪遺跡、平館村の間沢遺跡、福地村の西山遺跡、六ヶ所村の沖附（2）遺跡などで縄文時代後期のものが見つっています。

## ま と め

稲山遺跡は、青森市の東部、諏訪沢に所在し、青森市東～南部に広がる山地の末端部に相当する稲山の南丘陵、標高10～35mに位置しています。縄文時代前期後半と後期前半の時期を主体とする遺跡です。

今年度、当委員会では、昨年度に引き続き、遺構・遺物が密集する調査区中央部の台地を主体に、面積約5,000m<sup>2</sup>の発掘調査を実施しました。

調査の結果、竪穴住居跡、土坑、埋設土器遺構、配石遺構、石棺墓等多数の遺構と、土器、石器、土製品、石製品等、段ボール箱で550箱の多量の遺物が見つかりました。これらの遺構・遺物は、縄文時代前期と後期の時期のものがありますが、両時期共に台地を中心として見つかっています。

縄文時代前期では、台地北側で袋状、フラスコ状土坑が点在する状況で見つかっています。台地南側では、大型住居跡を含む竪穴住居跡や埋設土器遺構が、直線状あるいはやや弧状の分布を呈して見つかっています。また、竪穴住居廃絶後の窪地は、遺物集中ブロック（捨て場）となっており、多数の土器が完形等の個体として識別できる状況で見つかっています。

縄文時代後期では、台地北側の最も標高の高い地点で石棺墓や配石を伴う土坑、柱穴が見つかっています。墓域として捉えられるものです。台地北側の少し標高の低い地点では、袋状、フラスコ状を呈する土坑を主体に、多数重複する土坑が見つかっています。台地南側は、遺物集中ブロック（捨て場）となっており、多量の遺物が見つかっています。後期の遺物集中ブロックは、今後調査を予定している、台地の東斜面にも存在することがわかっています。

発掘調査は、今年度以降も実施する予定です。先行したトレンチ調査等により、今後調査を予定している台地の東斜面においては、縄文時代後期の遺物集中ブロックのほか、規模や形態等の状況から住居跡や土坑と考えられる遺構が、斜面の下まで密集していることがわかっています。

今後の調査では、縄文時代前期と後期における、各種遺構の性格や分布等、本遺跡の性格がいつそう明らかになるものと考えられます。



作業風景

## 既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

|                     |        |      |                          |
|---------------------|--------|------|--------------------------|
| 青森市の文化財             | 1      | 1962 | 『三内霊園遺跡調査概報』             |
| 〃                   | 2      | 1965 | 『四ツ石遺跡調査概報』              |
| 〃                   | 3      | 1967 | 『玉清水遺跡調査概報』              |
| 〃                   | 4      | 1970 | 『三内丸山遺跡調査概報』             |
| 〃                   | 5      | 1971 | 『野木和遺跡調査報告書』             |
| 〃                   | 6      | 1971 | 『玉清水 遺跡発掘調査報告書』          |
| 〃                   | 7      | 1971 | 『大浦遺跡調査報告書』              |
| 〃                   | 8      | 1973 | 『孫内遺跡発掘調査報告書』            |
|                     |        | 1979 | 『蚩沢遺跡』                   |
|                     |        | 1983 | 『四戸橋遺跡調査報告書』             |
| 青森市の埋蔵文化財           |        | 1983 | 『山野峠遺跡』                  |
| 〃                   |        | 1985 | 『長森遺跡発掘調査報告書』            |
| 〃                   |        | 1986 | 『田茂木野遺跡発掘調査報告書』          |
| 〃                   |        | 1987 | 『横内城跡発掘調査報告書』            |
| 〃                   |        | 1988 | 『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』         |
| 青森市埋蔵文化財調査報告書第 16 集 |        | 1991 | 『山吹（1）遺跡発掘調査報告書』         |
| 〃                   | 第 17 集 | 1992 | 『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』         |
| 〃                   | 第 18 集 | 1993 | 『三内丸山（2）遺跡発掘調査概報』        |
| 〃                   | 第 19 集 | 1993 | 『市内遺跡発掘調査報告書』            |
| 〃                   | 第 20 集 | 1993 | 『小牧野遺跡発掘調査概報』            |
| 〃                   | 第 21 集 | 1994 | 『市内遺跡詳細分布調査報告書』          |
| 〃                   | 第 22 集 | 1994 | 『小三内遺跡発掘調査報告書』           |
| 〃                   | 第 23 集 | 1994 | 『三内丸山（2）・小三内遺跡発掘調査報告書』   |
| 〃                   | 第 24 集 | 1995 | 『横内遺跡・横内（2）遺跡発掘調査報告書』    |
| 〃                   | 第 25 集 | 1995 | 『市内遺跡詳細分布調査報告書』          |
| 〃                   | 第 26 集 | 1995 | 『桜峯（2）遺跡発掘調査報告書』         |
| 〃                   | 第 27 集 | 1996 | 『桜峯（1）遺跡発掘調査概報』          |
| 〃                   | 第 28 集 | 1996 | 『三内丸山（2）遺跡発掘調査報告書』       |
| 〃                   | 第 29 集 | 1996 | 『市内遺跡詳細分布調査報告書』          |
| 〃                   | 第 30 集 | 1996 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』           |
| 〃                   | 第 31 集 | 1997 | 『市内遺跡詳細分布調査報告書』          |
| 〃                   | 第 32 集 | 1997 | 『桜峯（1）遺跡発掘調査概報』          |
| 〃                   | 第 33 集 | 1997 | 『新町野遺跡試掘調査報告書』           |
| 〃                   | 第 34 集 | 1997 | 『葛野（2）遺跡発掘調査報告書』         |
| 〃                   | 第 35 集 | 1997 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』           |
| 〃                   | 第 36 集 | 1998 | 『桜峯（1）遺跡発掘調査報告書』         |
| 〃                   | 第 37 集 | 1998 | 『新町野遺跡発掘調査報告書』           |
| 〃                   | 第 38 集 | 1998 | 『野木遺跡発掘調査報告書』            |
| 〃                   | 第 39 集 | 1998 | 『市内遺跡詳細分布調査報告書』          |
| 〃                   | 第 40 集 | 1998 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』           |
| 〃                   | 第 41 集 | 1998 | 『野木遺跡発掘調査概報』             |
| 〃                   | 第 42 集 | 1998 | 『熊沢遺跡発掘調査概報』             |
| 〃                   | 第 43 集 | 1999 | 『市内遺跡詳細分布調査報告書』          |
| 〃                   | 第 44 集 | 1999 | 『葛野（2）遺跡発掘調査報告書』         |
| 〃                   | 第 45 集 | 1999 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』           |
| 〃                   | 第 46 集 | 1999 | 『新町野・野木遺跡発掘調査概報』         |
| 〃                   | 第 47 集 | 1999 | 『稲山遺跡発掘調査概報』             |
| 〃                   | 第 48 集 | 1999 | 『熊沢遺跡発掘調査報告書』            |
| 〃                   | 第 48 集 | 2000 | 『熊沢遺跡発掘調査報告書』            |
| 〃                   | 第 49 集 | 2000 | 『稲山遺跡発掘調査既報』             |
| 〃                   | 第 50 集 | 2000 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』           |
| 〃                   | 第 51 集 | 2000 | 『桜峯（1）・雲谷山吹（3）遺跡発掘調査報告書』 |
| 〃                   | 第 52 集 | 2000 | 『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査報告書』      |
| 〃                   | 第 53 集 | 2000 | 『市内遺跡発掘調査報告書』            |

# 報告書抄録

| ふりがな               | いなやまいせきはくつちょうさがいほう                         |                       |  |                |   |                           |                        |                              |     |
|--------------------|--|-----------------------|--|----------------|---|---------------------------|------------------------|------------------------------|-----|
| 書名                 | 稲山遺跡発掘調査概報                                 |                       |  |                |   |                           |                        |                              |     |
| 副書名                |  |                       |  |                |   |                           |                        |                              |     |
| 巻次                 |  |                       |  |                |   |                           |                        |                              |     |
| シリーズ名              | 青森市埋蔵文化財調査報告書                              |                       |  |                |   |                           |                        |                              |     |
| シリーズ番号             | 第49集                                       |                       |  |                |   |                           |                        |                              |     |
| 編著者名               | 小野貴之                                       |                       |  |                |   |                           |                        |                              |     |
| 編集機関               | 青森市教育委員会                                   |                       |  |                |   |                           |                        |                              |     |
| 所在地                | 〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22-5 TEL 017-734-1111 |                       |  |                |   |                           |                        |                              |     |
| 発行年月日              | 西暦 2000年3月31日                              |                       |  |                |   |                           |                        |                              |     |
| ふりがな<br>所収遺跡名      | ふりがな<br>所在地                                | コード                   |  | 北緯             | 東経  | 調査期間                      | 調査面積<br>m <sup>2</sup> | 調査原因                         |     |
|                    |  | 市町村                   | 遺跡番号   |                |   |                           |                        |                              |     |
| いな<br>稲<br>やま<br>山 | あおもりし<br>青森市<br>すわのさわ<br>諏訪沢               | おおあざ<br>大字<br>あざ<br>山 | 02201<br>045                                       | 40°<br>49<br>2 | 140°<br>47<br>30                          | 19990511<br>~<br>19991119 | 4,844                  | 道路建設（東北縦貫自動車道八戸線建設工事）に伴う事前調査 |     |
| 所収遺跡名              | 種別   | 主な時代                  | 主な遺構   |                | 主な遺物                                      |                           | 特記事項                   |                              |     |
| いな<br>稲<br>やま<br>山 | 集落跡  | 縄文                    | 竪穴住居跡<br>土坑柱穴<br>埋設土器遺構<br>石棺墓<br>配石遺構<br>遺物集中ブロック |                | 12軒<br>268基<br>9基<br>34基<br>3基<br>5基<br>2 |                           | 縄石土石                   | 文土<br>製                      | 器器品 |

青森市埋蔵文化財調査報告書 第49集

## 稲山遺跡発掘調査概報

発行年月日 平成12年3月31日

発行 青森市教育委員会

〒030-8555 青森市中央一丁目22-5

TEL 0177-34-1111

印刷 青森オフセット印刷株式会社

〒030-0802 青森市本町11-16

TEL 017-775-1431